

令和7年度 学校評価（最終評価）

項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価と課題
本年度の 重点目標	1 普通科、生活文化科それぞれの特長を生かした教育活動のさらなる活性化を図り、将来地域で貢献できる人材を育成する。 2 情報機器端末の活用を推進し、主体的に学びに向かう力や自らの学習を調整する力を養う。 3 防災教育を中心とした安全教育に力を入れ、自分の命は自分で守るという意識を高めさせる。 4 ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方改革をさらに進める。		
総務部	関係行事の円滑な運営	アンケートを実施し、行事ごとに実施要項を見直しする	行事ごとにアンケートを取り、その都度見直すべき箇所についてはできるだけ早めに修正することを心掛けてきた結果、行事の運営をスムーズに行うことができた。行事实施時期の変更や実施形態の変更により、また新たな修正点が発生するため、次年度も見直しを行っていく。
	広報活動	紙媒体とホームページの有効的な活用	『きりり吉良高』は年3回、PTA会報『しらはま』は、年1回の発行とは別に、行事等に関しては、その都度ホームページへアップした。しかし、行事や部活動の内容に関して、なかなか更新されていない部分もあることが課題である。今後は、総務部からも声かけをしながら、協力をお願いしていくことが必要である。
	情報処理のマニュアル化	情報関係の業務のマニュアル作成	年度当初にマニュアルの作成をした。関係する教職員に配付して、業務手順の確認をすることができた。次年度は、新入生のICT端末に関して新しい取り組みが始まるので、それに対応できるマニュアルの作成をする必要がある。
教務部	基礎学力の定着と主体的に学びに向かう力・学習を調整する力の育成	魅力ある授業実践	昨年に引き続き、一部の教室で実験的にホワイトボードを設置し、ICTを活用するための環境整備が進みつつある。ホワイトボードを運用する中で、ペンの色等にも注意して、生徒の学ぶ力を高めるための活用方法を研究していく必要がある。
	学習評価の充実	評価方法の研究	デジタル採点システムの導入により、評価の効率化が進んだ。より良い評価方法を探る中で、基準をある程度明確に示すことができた。今後も評価の方法を研究し、生徒の指導に生かせるようにしていく必要がある。
	多様なニーズに対応した学習環境の整備	遠隔授業の研究	今年度は遠隔授業実施該当者がおらず、制度や実施方法を吟味するにいたらなかった。多様なニーズに対応していくため、今後も研究が必要である。
生徒指導部	校則の見直し	服装規定、身だしなみ規定、生徒証明カードの生徒心得の内容検討	今年度から新たに運用が開始された校則がいくつかあったが、大きなトラブルもなく初年の運用ができた。今後は修正点の洗い出し等を行っていきたい。
	防災活動	1年生避難経路確認訓練、地震津波火災避難訓練、三校合同地震津波避難訓練の実施	今年度は本校における防災活動にも大きな修正を行った1年になった。1年生のみの訓練実施が1回、全校実施の避難訓練を2回実施した。昨年度までの三校合同地震津波避難訓練は2年生の生活文化科のみの実施であったが、今年度からは全校での実施とした。より実際の避難に近づけた訓練が可能となり、今後も改善をしながら継続的に活動できるものにしていきたい。
進路指導部	進路指導の企画の改善	各学年、学期ごとの企画の改善	各学年とも、目的を明確にした企画を実施し、成果をあげることができた。
	生徒の主体的な進路選択	生徒の個性に応じた進路指導の実施	面談などを通じ、生徒の個性に応じた指導を行い、進路実現につなげられた。
保健部	生徒の心身の健康増進	健康観察や自己管理能力の向上	保健室来室生徒に対して適切な健康指導を行うことができた。精神的不調により来室する生徒が例年より多く、時間を割いた。来年度はもう少し効率良く対応できるようにしたい。また、外部講師を招きゲートキーパー講習会を行い、生徒の心の健康に対する関心を高めることができた。
	環境美化・安全の推進	美化委員会の活動の活性化 安全点検の実施	美化委員を中心にワックスがけを行い、校内の美化を推進することができた。長寿命化工事に対応した清掃場所の変更を臨機応変に行うことができた。
生徒会部	部活動の活性化	学年会、部活動顧問との連携 部活動における安全の確保	部活動の安全のために必要物品の購入など環境整備に取り組むことができた。また、部活動顧問との連絡を密にして、必要書類などの提出作業をスムーズに行うことができた。今後も継続していききたい。
	学校行事の充実	計画を早め立て、わかりやすいマニュアルの作成	行事の計画や細案など早期に準備・連絡することができ、スムーズな行事運営ができた。また、生徒会役員が中心となって活動することができた。
第3学年	自覚と責任	最上級生としての自覚 身だしなみ指導の充実	学校行事を通して、最上級生として、吉良高校の伝統の継承に貢献することができた。また、身だしなみにおいても、大きく乱れることはなく最上級生として他の模範となることができた。
	自立と協調性	自発的・主体的に行動できる力の育成 仲間意識の向上	清掃時間やクラス活動において自ら進んで動く生徒が多く見られた。仲間意識も非常に強く、普段の学校生活においても協力し合う姿が見られた。特に、就職・進学においては、互いに声を掛け合い前向きに取り組む姿勢が見られた。
	進路目標の実現	進路実現の支援、進路説明会の実施 進路指導部との連携、個人面談の充実	進路ガイダンスや個人面談の実施などにより、進路については就職・進学ともに、概ね生徒達が希望してきた進路を実現することができたと感じている。
第2学年	自覚と責任	身だしなみ指導の充実、日々の清掃指導 ホームルーム役員の職務徹底 特別活動の推奨	定期的な身だしなみ指導に加え、日頃から学年の教員を中心に身だしなみ指導を行うことができた。室長をはじめとし、ホームルーム役員の仕事を責任もって行わせることができた。
	学力の向上	授業の充実 丁寧な学習支援	多くの教員がICT機器を積極的に活用し、生徒の理解度が高くなるような授業研究をすることができた。また、授業外でも生徒に寄り添い学習サポートを行うことができた。
	進路目標の設定	LTの活用、個人面談の充実 進路指導部との連携、進路行事の実施	希望制のインターンシップなどの進路行事に加え、探究活動を通して進路意識を高めさせることができた。また、長期休業中に進路に関する課題を課すことで、生徒に進路に関する知識を深めさせることができた。
第1学年	高校生としての自覚と行動	基本的生活習慣の確立、積極的な挨拶の励行 時間に対する意識付け、特別活動の推奨	様々な場面で積極的に声をかけることで、進んで挨拶する生徒が増えた。また、授業の開始や日々の身だしなみ指導を繰り返したことで、基本的な生活習慣を確立することができた。
	基礎学力の向上	基礎基本の定着、授業規律の向上 家庭学習習慣の定着	学年集会を通して授業の重要性を説明することで、前向きに授業に取り組む意識を作ることができた。また、それぞれの授業で工夫をしたことで、集中して授業に取り組むことができた。

	進路研究	多様な進路研究と職業観の育成 類型・コースの選択	LTや探究、個人面談を通して、多くの選択肢を提示することで、生徒がより良い選択をすることができた。また、企業や大学と触れる機会を作ること で、進路への意識を高めることができた。
生活文化科	生活文化科の活性化	行事や活動の活性化と広報活動の充実	地域の祭での開発商品販売等に参加し、地域の一員としての自覚をもたせる ことができた。地域や企業と連携を図り、研究発表ができた。研究は今後も 継続していきたい。また、卒業研究作品発表会、3年生徒による中学校訪問、 ホームページ等で生活文化科の広報活動を行うことができた。
	教科指導の充実	観点別評価を見据えた授業実践	さまざまな手段を用いて、生徒が主体的に活動できるような工夫を試みた。 生徒の多様性に様々な工夫が必要だと感じた。
総合評価		<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化科の商品開発や地域の催しへのボランティア活動など、地域と連携して教育活動の活性化を図るこ とができた。一方で、普通科の探究活動やプレゼンテーション能力向上のための取組などを十分に発信するこ とができていなかった。 ・ICTを中心として生徒の基礎学力の定着を促すとともに、より主体的に学習や自己分析に取り組めるよ う、学習環境を整備することができた。 ・近隣の保育園と小学校と危機管理体制を強めるとともに、防災リーダーの育成を重視しながら、すべての生 徒が能動的に防災や危機管理について考える機会を与えることができた。 ・保護者対応時間の制限、校舎施設時間の短縮、デジタル採点の導入、部活動ガイドラインの確認、男性の育児 休暇の取得など在校時間や休暇についての意識を高める働きかけをして、ワーク・ライフ・バランスを意識した 働き方改革を進めた。 	
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育活動のさらなる活性化 2 基礎学力の定着、主体的に学びに向かう力の向上 3 防災教育を中心とした安全教育、危機管理意識の向上 4 ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方改革 5 学校いじめ防止基本方針に基づく取組 	